第 2017-20 号

恵みと真理のニュース

2017 年 5 月の二次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

[証]

私のような罪人を救ってくださった主の恵み驚くべきこと、初めて信じるその時間が尊いです

私は1972年春におばあさんと 舅姑 舅姑 舅と姑 舅と姑舅姑を仕えて七人の兄弟の中で長男と結婚しました。紹介してくださった人の話だけ聞いて結婚しましたが、結婚してから紹介してくださった人がおおげさだたのを知りました。その後、4人の子供を産みました。育つ家族は多くて経済的には豊かではなかったので様々な苦労をしました。

典型的な農村家庭なので様々な偶像崇拝をしました。家族皆がお寺に行ったり、巫女をよく呼んで祭祀を行いました。秋には祭祀をするため餅を作っておばけものに福を願って甕台と屋根裏部屋にまで米を留めておいて福を願いました。さらにトイレのおばけものにも餅を捧げるありえない事もありました。大人には必ず従順しなければならない家の雰囲気だったので生活はまるで朝鮮時代の女のようでした。そのように8年が経ってからソウルで分家しました。 一身や家庭の厄運を祓い 一身や家庭の厄運を祓い 一身や家庭の厄運を祓い膨らんだ夢を持ってソウルに来ましたが、貸し切り部屋を探すのも難しかったです。お金も問題でしたが子供たちが多くてすぐ家をかしてくれませんでした。辛うじて台所と部屋一つある家を借りて生活を始めました。旦那は職場を通って私は家で働きをしました。体は苦しかったですが心だけは以前の生活より楽でした。少し貯蓄もしながら幸せでした。

生活がある程度安定されたと思いましたが、旦那が急に痛くなり職場生活ができなくなりました。職場を辞めた旦那がスワンに住む姉が家を買って引っ越しするのをお祝いをするため行って来てから私達もスワンに住もうとしました。 練炭の小売業をしていた姉の夫が就職してその仕事をやめるようになっており、そのことを夫が受け継いでするということでした。私は姉にお世話になるのが心も不便だったので反対しました。しかも体の調子もあまりよくなかった旦那だったのでもっと反対しました。しかし、決心した旦那の維持を下ろしませんでした。先にスワンに行った旦那をついて私も小学生の娘を転学させて来ました。

始めは練炭を配達リヤカーを後ろで押して旦那を助ける程度でしたが、時間が経ってからは自分の仕事になりました。旦那は健康が良くなくてさらに労働に疲れてお酒を飲みタバコを吸って昼でもお酒に酔って寝るのが普通になりました。私の体と心も日々くたびれました。6人の家族を仕えるため働いて一日練炭1500個をリアカーに乗せて狭い路地を通って地下室の練炭の倉庫などに積むその険しいことを一人で耐えなければならなかったです。仕事を終えて家に帰ってくると旦那は寝て長女が子供達の面倒を見ながら寝かせて、一人で宿題をしていました。その姿を見ると私の心は言葉では表現できないほど痛くて辛かったです。そのように心が辛くて苦しい中で毎週ことに恵みと真理ニュースを読むようになりました。そして1983年3月1日のニュースに聖霊大望会の広告を見て何かでひっかかれたようにその聖会に参加しました。十字架の道に対する主題である牧師の説教を聴き心が感動を受けて、共に祈る時には今まで我慢していた涙を流しました。私の今の環境と状況で苦しいのは何もないのだ、私のためイエス様が受けたその苦難と比べられなかったです。悔い改めて様々な願いを持って神様に祈って流れる涙を止められなくて大きい声で泣きました。

その聖会が終わって外に出てきれいな空気を吸いましたがとても新鮮でした。道端の草も生命力に満ちていて ほっそりした花びらでもかつてに良い香りがしました。恨みと不平して挫折した30代前半の若い年に自殺まで考えましたが、4人の子供の目を見ながら自分の考えの通りしなかったです。神様が私を呼んでそのように低くさせられ、死の陰気な谷間を通ることにしたようです。

その時から私は恵みと真理教会のスワン聖殿に出席して神様を畏れ委ねて愛する信仰生活を始めました。そうしながら悲しみと絶望の人生が感謝と希望の人生に変わりました。当会長の牧師が話す説教を聴き慰められ祝福を受けて小さい希望から大きい希望まで祈りに答えられる体験をするようになりました。 魂が恵まれているように、すべての面で恵まれ、健康になりました。 旦那のため私の涙の祈りにも神様が答えてくださって93年に旦那もイエス様を受け入れました。そして、聖霊の恵みで酒とタバコをやめて家の家長の役割に充実になって教会でも案手執事になりました。旦那は男性区域長としても20年間勤続して教会と聖徒を仕えています。その間私も勧士の職分を受けました。私を愛する神様は私の全ての家族を救ってくださいました。98年には旦那の二親もスワンに来てイエス様を受け入れて信仰生活をしてから何年前に天に召されました。

振り返ってみたら神様に感謝することが多いですが、特に感謝するのは私たちの家族が天国の生命本に名前が記録されたことです。"私の口ではいつも救い主を賛美します。" 私はこの讃美歌23章を朝と夜ことに楽しく主を賛美します。落胆して倒れていた私に来られ真の人生を生きる理由になってくださって大きい力と慰めになる主に感謝します。私の家族に永遠な命と天国を下さった主、楽しくて幸せな心で教会と聖徒を仕えるように導いてくださった主を賛美します。残った人生をいつも感謝し賛美しながらただ主だけに栄光と喜びを捧げるため生きます。

[信仰コラム]　私は聖霊を信じます（3）

" 我は聖霊を信ず "（使徒信条）

聖霊様がなさることと聖霊様の交わりに続いて、聖霊洗礼に関して調べてみます。

聖霊洗礼を正確に理解するためにはまず、聖霊洗礼に関連する用語が使われた様々な場合を調べてみる必要があります。聖書に " 聖霊によって洗礼を授ける。聖霊によって洗礼を受ける " " 聖霊を受ける " " 聖霊が臨む。聖霊が下る " " 聖霊を注ぐ。聖霊を授ける " " 聖霊充満 " 等で表現しました。特に " 聖霊充満 " は聖霊洗礼と関連して聖書で最も多く使われた表現です。聖霊洗礼に関連した多様な表現を綿密に比較して検討してみると大いに２つに区分することができるという結論に到達します。 " 生まれ変わりあるいは救い " と関連する聖霊洗礼があり " 福音伝播 " と関連した聖霊洗礼があります。この２つが全て必要です。 " 生れ変わり " と関連した聖霊洗礼を受けるべきであり " 福音伝播 " と関連した聖霊洗礼も受けなければなりません。

第一、生れ変わりと関連する聖霊洗礼を調べてみます。

生れ変わることとはいかなる現象を話すのですか？イエス様はニコデモに神様の国に入る道に関してしみじみと説明なさいました。まず生れ変わらなければならないと言われました。その後に、生まれ変わることは聖霊によることであり、肉親ではなく魂に起きる変化だと言われました。次に、聖霊様が人を生まれ変わらせるのはまるで風が私達の目には見えないが実在し、風が行ったことの結果はみることができるのと同様だと言われました。その後、青銅の蛇を仰いでみると生きるという神様のお言葉をその通に信じて仰いでみたので生きた人々のようにイエスキリストを信じさえすればとこしえの命を得ると言われました。

生まれ変わることは聖霊によるという事実をイエス様がニコデモに確に言われました。イエス様を信じると罪の許しを得て聖霊による新たな命すなわち、とこしえの命を得て神様の子供として生れるようになります。従って、聖霊によらなくては誰も生まれ変わることができないという結論に至ります。イエス様を主として信じ、迎接した人々は人種と身分の差に関係なく全て " 一つの聖霊で洗礼を受け " 一つの体になりました。そして聖霊様が内在なさいます。これが " 生まれ変わり " と関連した聖霊洗礼であります。

第二、福音伝播と関連する聖霊洗礼を調べてみます。

イエス様は弟子達に聖霊によって洗礼を受け、上から能力を授けられるまでエルサレムを離れずにとどまるよう言いつけられました。 " 福音伝播 " と関連する聖霊洗礼は " 生まれ変わり " と関連した聖霊洗礼とは別の体験です。福音書には弟子達が " 福音伝播 " と関連する聖霊洗礼を受ける前に既に生れ変わったという証拠があります。最後の晩餐席でイエス様が弟子達に言われたお言葉を見ると弟子達が既に罪の拭いを受けて正しくなり、生まれ変わった身分であることを意味しています。従って " 福音伝播 " と関連した聖霊洗礼は " 生まれ変わり " と関連した聖霊洗礼を受けた信者にお許しなった別の聖霊洗礼だということが確です。

神様が聖徒達に " 福音伝播 " と関連する聖霊洗礼を授けられることには確な目的があります。それは聖徒達が権能を受けて地のはてまで福音を伝播するようになさるためです。弟子達の行動と生活を見てみると聖霊洗礼による権能を受ける前と受けた後には大きな差があります。初代教会の聖徒達が " 毎日、宮や家で、イエスがキリストであることを、引きつづき教えたり宣べ伝えたりした " 理由が " 福音伝播 " と関連した聖霊洗礼を受けたからです。

" 生まれ変わるための聖霊洗礼 " と " 福音伝播のための聖霊洗礼 " このように二種類の聖霊洗礼があるという事実を認識してこれを教えるのが聖書に一致して適当であります。 " 生れ変わるようにする聖霊洗礼 " を受けた聖徒の皆さんは " 権能を受けて福音を伝播するようにする聖霊洗礼 " を受けて滅びの道に行く人々をとこしえの命の道に導くための熱情と権能で充満であるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム ‘緑の牧場、清い川’ 本の語り中」

義のために迫害されてきた人

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

イエス様の山上の寶訓の中に “さいわいである”というお話が二度言及された所は “義のために迫害されてきた人”に対してたけです。 “義のために迫害されてきた人”は倍のさいわいを受けるようになります。 “義のために迫害される 。” という言葉は “義 のあるように行うから迫害を受けること”を意味ではないです。 イエス様は “義のために迫害されてきた人はさいわいであるから”とおっしゃった後まもなく “私をよってあなたがたをののしって迫害して偽りであなたがたを対抗してすべての悪い者と言う時にはあなたがたにさいわいである。” と説明しました。 そうするので “義のために”というお話は “イエスキリストのために”というお話と等しい意味です。 “ために”と翻訳された原語は “よって”と翻訳されたりします。 “イエスキリストによって” 受ける迫害はすぐ “イエスキリストのために” 受ける迫害です。
イエスキリストを信じてそのお話どおり生きて行こうとすればさまざまな迫害にあうことを勘案しなければなりません。 社会生活で不利益と不当なことといじめのあう事を経験するとか家族たちから冷待や排斥にあうことも覚悟しなければなりません。 しかしこのような迫害を受けた人はさいわいであるとイエス様が親しくおっしゃいました。 今、本文のお話を詳らかによく見ます。

第一は、世の中がイエスキリストを信じる人を迫害する理由をよく見ます。

１）世の中はクリスチャンが世の中の風俗に付かないから迫害します。 ２）不信人に向けて神様の前に罪人であると言いながら悔い改めなさいというから迫害します。 ３）偶像崇拝を排撃するから迫害します。 ４）クリスチャンは親、兄弟、お子さん、夫、妻よりイエス様をもっと愛するから迫害します。 ５）礼拝と奉仕に熱心に参詣するから迫害します。 ６）不信人に臨む恐ろしい審判を言うから迫害します。７）相手先がいややがってことわるにもかかわらずずっと福音を伝えるから迫害します。 クリスチャンが世の中でオポチュニストになって世の中と妥協する人になれば迫害を免れることができます。 しかしキリスト中心、聖書中心に生きて行けばどんな人には称賛を受けるが、他人には迫害を受けるようになります。 “いったい、キリスト・イエスにあって信心深く生きようとする人は、みな、迫害を受ける。”(テモテへの第二の手紙 3:12)で聖書はおっしゃっています。 聖徒は彼がこの世の中に生きるうちに世の中が迫害することを変に思うまでもないです。 世の中は悪魔に属しています。 悪魔は不信人に福音の光彩が照らさないようにしようと妨げます。
コリント人への第二の手紙，4 章 4 節には “彼らの場合、この世の神が不信の人たちの思いをくらませて、神のかたちであるキリストの栄光の福音の輝きを、見えなくしているのである。” 言いました。

だから世の中がクリスチャンと教会を憎んで迫害するのが少しも変な事ではないです。

二番目は、迫害を受ける時私たちが取る態度に関してよく見ます。

イエス様がおっしゃるのを “わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。 喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言人たちも、同じように迫害されたのである。”（マタイによる福音書 5:11,12） “人々があなたがたを憎むとき、また人の子のためにあなたがたを排斥し、ののしり、汚名を着せるときは、あなたがたはさいわいだ。 その日には喜びおどれ。見よ、天においてあなたがたの受ける報いは大きいのだから。彼らの祖先も、預言人たちに対して同じことをしたのである。”（ルカによる福音書 6:22,23） としました。
迫害を受ける時に喜んで踊らなければならない理由がたくさんあります。 １）イエス様によって受ける迫害は迫害を受ける人が天国の民という証明になるからです。 ２）イエス様によって受ける憎しみは憎まれる人が世の中に属しないでイエス様のえらばれたのを証明になるからです。 イエス様はおっしゃるのを “もしこの世があなたがたを憎むならば、あなたがたよりも先にわたしを憎んだことを、知っておくがよい。もしあなたがたがこの世から出たものであったなら、この世は、あなたがたを自分のものとして愛したであろう。しかし、あなたがたはこの世のものではない。かえって、わたしがあなたがたをこの世から選び出したのである。だから、この世はあなたがたを憎むのである。” (ヨハネによる福音書 15:18,19) としました。 ３）イエス様によって受ける迫害は迫害を受ける人が天国で賞を受けることを証明するからです。 イエス様がおっしゃるのを “わたしのために人々があなたがたをののしり、また迫害し、あなたがたに対し偽って様々の悪口を言う時には、あなたがたは、さいわいである。喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言人たちも、同じように迫害されたのである。”（マタイによる福音書 5:11,12） としました。 私たちがイエスキリストを信じて迎接すれば救いをもらうが、天国で神様のくださる報いはイエスキリストのために働いたとおり受けます。 そしてイエスキリストのために迫害を受けたとおり受けます。 ローマ人への手紙 8 章には “もし子であれば、相続人でもある。神の相続人であって、キリストと栄光を共にするために苦難をも共にしている以上、キリストと共同の相続人なのである。わたしは思う。今のこの時の苦しみは、やがてわたしたちに現されようとする栄光に比べると、言うに足りない。”（ローマ人への手紙 8:17,18） としました。 クリスチャンは世の中で軽蔑を受けるとか無視される時があっても将来には必ず歓迎を受けて賞を受けるようになります。 ４）イエス様によって受ける迫害は迫害受ける人に昔の予言人もこんな迫害を受けたということを思わせるからです。 イエス様がおっしゃるのを “喜び、よろこべ、天においてあなたがたの受ける報いは大きい。あなたがたより前の預言人たちも、同じように迫害されたのである。”（マタイによる福音書 5:12） としました。 こういうので私たちが福音のために迫害を受けて蔑視と嘲弄にあう時は立派な予言人の班列に立っている自分を思いながら喜んで楽しがらなければなりません。

三番目は、迫害を受けるその時がイエスキリストに向けた自分の愛と忠誠を現わす機会というのをよく見ます。

皆さんは迫害を受ける時に “イエス様を向けた私の愛と忠誠を現わす絶好の機会である。” と思ってその機会を善用してください。 ポリカブは週後 155 年にサマナ教会の監督でした。総督がポリカブに “ローマ皇帝の形状の前で敬排しようがそれとも死を選びなさい。” その脅威するとポリカブがこのように答えました。 “私は 86 年間イエスキリストを仕えて来たが神様はただ一番も私をさびしくしなかった。私がどんなにの王である救いの主をぶじょくする行動をすることができるか?” 軍兵がたきぎのやまに火を付けるとポリカブは次のように祈りました。 “全能な神様、私たちはイエスキリストを通じて神様であるあなたに関して完全な知識を得ました。 私を殉教人の班列に立ててくださってイエスキリストのための苦難に参加することができさせてくださったらありがとうございます。 私は天の大祭司長イエスキリストを通じて神様に感謝と光栄と讃尿を帰します。 世世無窮のように聖子と聖霊といっしょに光栄を受けるのを願います。” ポリカブは荘厳に神様を向けて彼の忠誠を現わしたように見えました。
そして私たちが迫害を耐えて勝つことで後に従う聖徒に立派な模本になって激励にならせます。また迫害を受ける聖徒は後へ来る聖徒に平坦な道を作ってくれるようになります。 今日の私たちがこのように自由に信仰生活をするようになったことは先に進んだ聖徒の殉教と献身のおかげです。 イエス様は迫害される人にもっと身近にいらっしゃって手におえる恵みをくださいます。 聖徒を迫害する人が神様が迫害を受ける聖徒を助けるために奇蹟を行うことを見て悔い改めてイエス様を信じるようになる事もあります。 パウロとシルアノがビリボで福音を伝えてからつかまってむちをたくさんあたって監獄に閉じこめられました。 彼らが夜中に祈って讃尿すると急に監獄が動く監獄の門があいて罪囚の足かせがすべてとけました。 看守は罪囚が皆逃げたと分かって自殺しようと刀を抜いてとりました。 パウロが叫んで言うのを “自殺しないよ私たちが皆ここにいる。” としたら看守が燈を持って来て確認してからパウロとシルアノの前に伏せて “先生よ、私がどのようにすれば救いを得ますか?” としました。使徒パウロが答えました。 “主イエスキリストを信じなさい。 そんなにすればあなたとあなたの家が救いを得よう。” 看守が彼らを連れて来てそのむち当たったところを洗わせて自分とその家族がすべて洗礼を受けた後に彼らどもを連れて自分の家に上がって食べ物をととのえてくれました。

イエス様が親しくおっしゃった山上の宝訓の八種のさいわいに関して連続して詳考しました。 “こころの貧しい人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである”と始まったが、終わりにも “義のために迫害されてきた人たちは、さいわいである、天国は彼らのものである。” 言いました。 一番目も八番目も皆が天国のさいわいを受けると言ったがその次元が違います。イエスキリストによって迫害を受けた人には報いのよるさいわいが追加されました。 心霊が貧しい人、悲しんでいる人、柔和な人、 義に飢えかわいている人、 あわれみ深い人 、 心の清い人 、 平和をつくり出す人 、 義のために迫害されてきた人 はさいわいである。 このような人に天国と慰労と地を企業で受けることと満腹さとあわれみを受けることと神様を見るようになることと神様の息子と称え受けることと天から賞を受けるようになるさいわいが約束されました。 皆さんはこのような八種のさいわいを皆が享受するようになるのを願いします。